



学校が核となる 共育コミュニティの形成を目指して 学校支援ボランティアの活動を通して 和歌山県紀の川市

紀の川市は、和歌山県北部に位置し、北は大阪府、西は和歌山市と岩出市に接し、人々が生活するうえで利便性に富み、清流紀の川がもたらす豊かな恵みと美しい自然環境、長い年月にわたって育まれてきた伝統ある歴史・文化をはじめ、豊富な地域資源を有しています。平成17年11月7日に旧那賀郡の5町が合併し、人口約7万人の市となりました。

昨年度から、桃山地区（旧桃山町）にある荒川中学校を中心に、安楽川小学校、調月小学校の3校を対象に、県の新しい施策である「きのくに共育コミュニティ」の形成に向けたきのくに共育コミュニティ推進事業（学校支援地域本部事業）を実施してきました。この事業のねらいは、住民が学校を支援する活動を通じて、学校、家庭、地域が一体となって、地域ぐるみで子育てをする体制を構築することです。子どもを中心に、学校を拠点として、

教職員、保護者、地域住民が課題や願いを寄せ合い、話し合い、共有する「共同学習」。さらには、地域のさまざまな教育課題を解決するための「共同実践」に取り組むことにより、子どもたちの育ちを支える関係づくりを目指しています。

事業を始めるにあたって

桃山地区では、従来から地域の方がゲストティーチャー等となって学校にかかわってきました。しかし、これは、学校から地域の方々への一方的な要請であり、単発的なことが多く、学校のために地域の協力をお願いするものでした。

そこで、事業の趣旨を踏まえ、お互いにメリットをもたらすために、事業の中心となる桃山地域共育コミュニティ本部を設立しました。本部役員は、各学校長、桃山地区区長・会長、PT

A代表、桃山地区公民館長、社会教育委員、青少年健全育成推進委員、更生保護女性会代表、教育委員会教育長、教育委員会生涯学習課長、教育委員会学校教育課長、元学校長、コーディネーター（3名）等で構成されています。その中で、事業を円滑に進めるため、特に考慮したのは、コーディネーターの配置です。地域の多くの関係者とのかわりを考えると、1人で任務を遂行するには無理があると判断し、3名を配置することにしました。また、社会教育にも、学校教育にも精通されている方を基準に選出しました。そして、何よりも3人の息が合うことを大切に考えました。

取組の紹介

事業を始めるにあたり、最初に取り組んだことは、学校支援ボランティアの募集です。コミュニティ本部で、募



図書ボランティアによる書架の整理

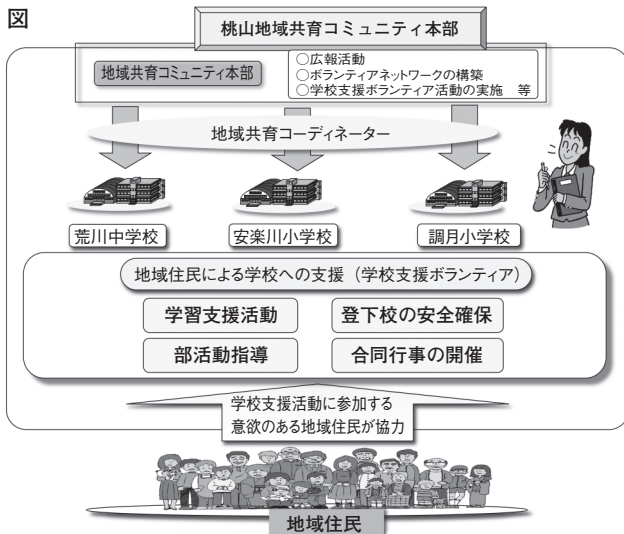
集の方法やチラシの内容についての協議をしました。ボランティアの募集内容を検討するにあたり、学校のニーズに応えるため、まず、教職員にアンケートを取りました。その後、募集チラシを桃山地区全戸（約2900戸）に配布しました。しかし、電話での申し込みは当初の予想に反して少数でした。そこで、コーディネーターが、各種団体の会合に出席し、事業の説明やボランティア登録のお願いをしまし



パソコンや携帯電話を使って、ネットパトロール中



防災ボランティアで放送原稿を生徒とボランティアとともに録音



た。また、口コミで知人への依頼も
ました。ボランティアからの紹介等も
あり、昨年度末は98名の登録を数えま
した。

次に、取組の中で特徴のあるものを
紹介します。

図書ボランティア

教職員へのアンケートで、最も必要
度の高かった図書ボランティアを積極
的に募集し、派遣することを進めまし
た。学校側の要望としては、昼休みの
時間と放課後の図書室開放の際に、生
徒たちの様子を見てほしい、また、読
み聞かせも行い、地域の人と子どもた
ちと接する機会をもってほしいとのこ

とでした。事業実施前に、図書室に關
する思いについて、生徒にアンケート
を取り、これからの活動の参考にする
ことにしました。長く続けたいので、
無理のないように、実際の生徒が利用
している昼休みの時間帯に応募して
くださったボランティアの方々が、子
どもたちの中に入っていました。

ネットパトロール

現在の情報化社会の中で、青少年を
取り巻く環境はずいぶん変化してきて
います。インターネットや携帯電話を
利用する中で、犯罪に巻き込まれた
り、いじめ等の問題が発生してきてい
ます。

荒川中学校では、教職員と保護者に
よる「あらかわNetパトロール委員
会」を設置し、インターネットや携帯
電話から有害環境を排除する取組をし
ています。

毎月1回、パソコンや携帯電話を利
用してネットパトロールを行っています
。そのような中で、コミュニティ本
部では、パトロールを行うボランティ
アとして、青少年健全育成活動に取り
組まれている方にお願ひし、協力して
いただきました。

防災ボランティア

荒川中学校では、昨年防災力を高め
るために、給食時に校内放送で防災に

成果と課題

ついでの情報発信する「あらかわ防
災ステーション」を立ち上げました。
ボランティアの方と生徒は、大学教授
の指導のもと、放送するための原稿を
作成し、地震が起きたときの対処の仕
方や、被災地の様子を「HOW T
O」形式で放送しました。生徒と共同
で行うことで、お互いに交流が深ま
り、楽しく活動できたようです。

昨年6月から事業を開始し、最初は
手探り状態でしたが、コーディネータ
ーの学校への訪問やボランティアとの
打ち合わせなど、積極的な活動の中で
徐々にボランティアの登録数も増え、
学校と地域の方々との交流が深まりつ
つあります。また、児童・生徒もボラ
ンティアの方々との触れ合いの中で、
地域で会った時に、会話等ができるよ
うになってきました。また、学校長の
前向きな姿勢の中で、教職員にも事業
の趣旨が理解されつつあります。
今後は、地域のボランティアの登録
数を増やし、さらに、学校の活動にか
かわることができるように、広報活動
やボランティア同士の交流に重点を置
き、学校を核としたコミュニティ作り
に努めていきたいと考えています。

(生涯学習課地域教育主事 寺本達也)